

3 2025 年に目指すべき医療提供体制の方向性

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、東紀州区域については、平成 27 (2015) 年から平成 37 (2025) 年の 10 年間で 10,000 人の人口減が見込まれています。その後は 5 年ごとに約 5,000 人の人口減が見込まれています。

また、65 歳以上 75 歳未満人口は平成 27 (2015) 年頃をピークに、75 歳以上人口は平成 37 (2025) 年頃をピークに、その後減少していくことが見込まれています。

以上により、当該区域の医療需要は減少していくことが予想されます。

また、当該区域は高速道路の延伸により、救急車搬送時間の短縮が図られている区域でもあります。

一方、平成 26 (2014) 年病床機能報告の状況からは、東紀州区域については回復期機能の一層の充実が求められるといえます。

- 当該区域に所在する 2 つの基幹病院に分散している急性期機能については、効率性及び質の確保の観点から、今後の集約化を想定しておくことが重要ではないか。この場合、人的交流を中心とした連携を進めていくことが必要ではないか。
- 尾鷲総合病院、紀南病院ともに、一定程度の回復期機能を確保することを検討してはどうか。
- 尾鷲総合病院については、脳卒中にかかる体制整備を図っていくこととしてはどうか。
- 紀南病院については、県南部の過疎地域に対する巡回診療等のハブ機能を維持していくこととしてはどうか。

なお、伊勢赤十字病院、松阪の 3 つの基幹病院や隣接する和歌山県新宮医療圏に所在する新宮市立医療センターとの連携を引き続き行っていくことを前提とします。

上記の詳細及びその他の病床を有する医療機関の機能については、将来にわたる人口動態等を踏まえながら、地域医療構想調整会議において引き続き検討していくこととします。